

2019年度 事業計画

特定非営利活動法人 沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい

沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい

▽設立趣意書



この法人は、不登校やひきこもり、障がい等を持っているため、一般的な就職による社会的自立が困難になっている当事者に対して、その状態から脱却する機会を提供しつつ、社会的自立を援助する活動や親の会等の事業を行う。また地域生活のための相談及び支援、助言や情報交換・地域交流の場の提供、活動支援並びに支援のための情報提供や啓発活動に関する事業を行い、すべての人が安心して楽しく暮らせるまちづくりと地域福祉の増進に寄与することを目的とする。



2010年(平成22年)10月12日：法人設立日

(1) 総会	理事・役員によって構成されます。年1度、組織の事業計画をや運営方針について報告・決議します。
(2) 理事会	理事・監事によって構成されます。法人活動上、必要な意思決定の議題について話し合います。年3回程度を目安に必要に応じて招集する事が出来ます。また、監事は理事の業務執行の状況や監査及び組織財産の監査をします。

理事会構成員

役職	氏名	所属	専門分野	今年度
代表理事	金城 隆一	NPO法人ちゅらゆい	子ども・若者支援	
理事	中尾 達馬	琉球大学	教育心理	
理事	横江 崇	美ら島法律事務所 こどもシェルター沖縄	法律	
理事	富田 将孝	富田税理士事務所	会計	
理事	糸数 未希	沖縄電力 にじのはしファンド	寄付	
監事	寺崎 丈晴	社労士officeてらざき	人事労務	



法人本部
金城隆一
白水崇真子

事務局
安次富亮伍（那覇）
平林勇太（うるま）

総務部
又吉樹里
前泊いずみ
久場祥子

地域連携
稻垣暁

障がい者支援事業部



うるま市
鈴木友一郎
喜瀬翼
松田けい
新崎なお
伊波みどり
前泊いずみ
神谷征子

子ども・若者支援事業部

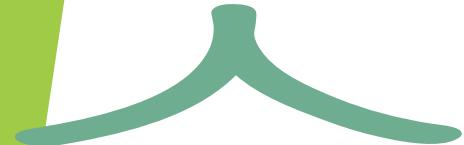


那覇市
安次富亮伍
嘉陽田絃矢
島袋しおり
又吉樹里
石橋桂子
○非常勤講師
稻垣暁（地域・防災）
中尾達馬（学習支援）
森里淳（PC講師）
鈴木みなこ（発達カウンセラー）
宜野座ゆうき（学生ボラ）

b&gからふる田場

平林勇太
中村知佳
伊波憲汰
久場祥子
福田展也
新崎なお
宜野座ゆうき（学生ボラ）

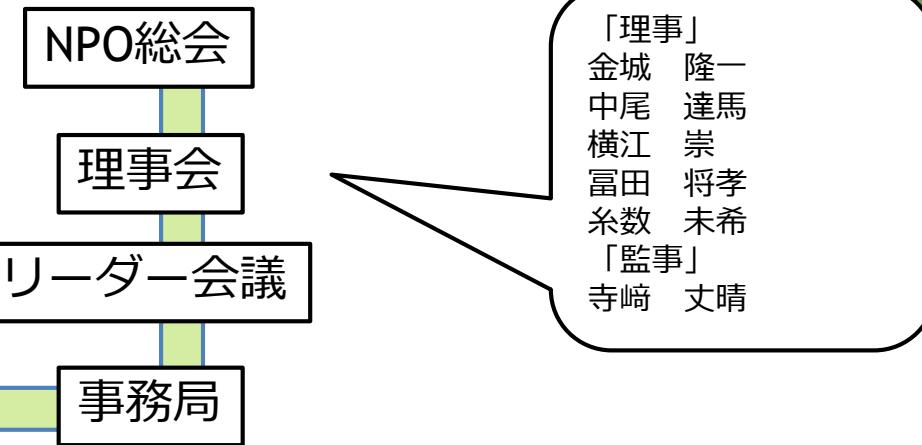
法人の体制



希望を感じられる世の中に

NPO法人
ちゅらゆい

金城隆一
鈴木友一郎
喜瀬翼
安次富亮伍（那覇）
平林勇太（うるま）
又吉樹里
稻垣暁



顧問：白水崇真子
NPOマネジメント：小阪亘
地域連携：稻垣暁
労務：寺崎丈晴
経理：林会計事務所

安次富亮伍（那覇）
平林勇太（うるま）

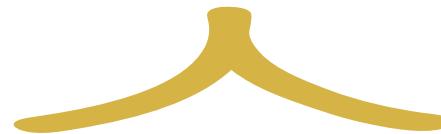


働く・学ぶ・遊ぶとともに楽しむ

コ ミ ュ ッ と !

うるま市

- ・就労移行支援
- ・就労継続B型支援
- ・キリン福祉財団
- ・中部ひきこもり親の会



すべての子どもに居場所を

k u k u l u

那覇市

- ・子どもの包括的自立促進支援事業
- ・kukulu自主事業
- ・ジョイント（シェアハウス・キャリア教育）
- ・ルネサンス高校提携事業
- ・沖縄大学ブランディング事業
- ・源河朝明那覇市社会福祉基金
- ・りゅうちゃん子ども希望基金
- ・那覇市地域福祉基金
- ・法人業務（寄付等）



b&gからふる田場

- ・子どもの家事業
- ・研修事業
- ・地域子ども・若者活動補助事業

希望を感じられる世の中に
NPO法人
ちゅらゆい

障がい者支援事業部 コミュツと！ 課題・事業計画

【現状と課題】

- ▶ 前年度予想した通り、収益が厳しい状況となった。利用者は前年度と同じ人数は登録しているが単価が下がったため収益が伸びなかつた。収入増に向けて立て直しが急務である。
- ▶ 事業所のカラーを明確にすること、利用者ニーズにそった事業を実施することが必要である。
- ▶ 前年度、センター長が交代したがその後は新センター長を中心に地域でも新しいネットワークを構築し利用者も増えている。
- ▶ 新規事業のからふるとの連携により数名の利用者が元気になるなどの良い効果が現れている。今後も連携しながら相乗効果を出していきたい。
- ▶ 今年より3力年でキリン福祉財団の助成を受けてうるま市の子ども・若者の資源を整理したりネットワーク化を図る事業を実施する。この事業も活用し地域での事業所認知を高め利用者獲得を行いたい。

【前年度の事業計画の結果】

①法改定による収入減対策

平成29年度収益 4,048,084円 - 平成30年度減額予想 -3,918,650円 = 収入129,434円

*現状維持でトントンの経営。現状より利用者が減ると赤字に転落する

→前年度の収支予想の通りに事業が推移した。

②コミュッと！の職員体制の整備

研修による職員意識の向上とリーダー職員への集中的フォローの実施

→新センター長を中心に職員がまとまり事業を行うことが出来ている。

③地域連携部と連携した利用者確保のための広報活動

1)これまでの利用者紹介ルート分析 2)事業整理（ターゲットとサービス提供の内容）3)関係機関への広報戦略と年間スケジュール策定

→計画的に関係機関への広報活動が展開できた。前年度末からは利用者が4名増

④新規利用者受入の仕組み作り

1)相談の受け方 2)体験活動への誘導 3)利用登録

→研修も実施し若干強化できたか。更に計画的に強化していく必要がある。

【前年度の事業計画の結果】

⑤訓練作業の拡充と適正な工賃支払い

kukulu就労事業との連携、中小企業家同友会との連携による作業獲得と実習先の確保。

多様な出口選択が出来るような就労訓練システムの構築と適正な工賃設定。

→kukuluとの連携や同友会との連携による作業確保、実習先の確保は全く進んでいない。多様な出口選択もまだ弱い。工賃も前年と変化がなく取り組みが必要な部分である。

⑥うるま市でのグループホームの開設

6月末までに融資計画を含む事業計画を立て、年度内に開設。コミュツと！利用者の入居希望者を中心にスタートしながら、外部への広報活動も行う。

→全く議論が進んでいない。

⑦那覇市での就労支援事業所の開設準備

那覇に就労訓練（作業）を誘致し、今年度は那覇市在住の利用者はコミュツと！登録として活動。

次年度の新規事業所オープンへの準備を行う。

→議論中。就労支援事業所より児童デイサービスが良いのではとの案も浮上しており議論が必要である。

【2019年度事業計画】

①事業所のカラーを検証・確立する

- ・コミュツと！がターゲットとする利用者層や自分たちの強みと弱みを確認し、職員に周知する。

②作業、外部での就労訓練を強化する

- ・利用者が行える作業と就労訓練を強化する。職員内でミーティングを実施し具体的な方針を策定する。（8月までに方針を決定する。）

③利用者を確保し収益をアップする

- ・月の収入を250万円で維持する。10月までに目標を達成したい。

④次年度の収入単価をアップする

- ・就労移行 就職者1割以上～2割未満（564単位）から2割以上～3割未満（686単位）
- ・就労継続B型 平均工賃5000円未満（562単位）から5000円以上1万円未満（571単位）

⑤コミュツと！以外の新規事業を実施する。

- ・来年4月開設に向けて準備を進める。内容。詳細については理事会でも報告する。

子ども・若者支援事業 kukulu、yukulu、b&gからふる田場 課題・事業計画

【現状と課題】

- ▶ 子供の貧困緊急対策予算による委託・助成・補助事業が8割を占めている。
- ▶ kukuluのプロポーザルは無事に採択された。ただし、今後もプロポーザルで採択される保証もなく、自主財源で運営する方法を模索する必要がある。
- ▶ からふるが3月よりプレオープン、4月から本格的にスタートした。
- ▶ 委託事業が収益の大半を占めている状態は経営上健全ではなく、自主事業による財源確保や寄付の仕組みづくりが必要。
- ▶ 毎年職員の新規雇用があるため、人材育成が必須。

①kukulu（委託・自主）

- ▶ 那霸市委託事業は子どもの貧困対策予算で運営されており、今年度で予算見直しになる可能性が高く、また次年度はプロポーザルによる事業選定となるため、確実な事業継続の見通しが立たない。
- ▶ 委託事業のため収益がない。
- ▶ 自主事業については積極的な広報が行えていない。事業全体の見直しも必要である。
- ▶ ルネサンス高校（通信制高校：愛知県豊田市）と提携し6名の子どもが入学、転入した。

<kukulu自主事業>

- ・正会員：44,770円×1名（前年度2名卒業）
- ・準会員：30,240円×0名
- ・割引会員：15,000円×1名
- ・スポット会員：5,700円×1名

年間収益...70万円程度

【事業計画】

- ・委託事業を前年度の方針を軸に堅実に実施する。

②シェアハウス事業

【課題】

- ▶ 助成事業3年目。今まで5名が利用。一時利用は42日利用がある。
- ▶ みらいファンドおきなわで寄付ページを作成した。今まで115,000円の寄付が集まっている。
- ▶ 前年度、企業から頂いた寄付が300万円ほど繰り越しているため、その財源を活用して今年度の運営を行う。次年度以降の運営のためには1200万円の寄付を集める必要がある。
- ▶ 利用者の確保と事業デザインを練り直さなければ、継続が難しい。→野口さんにバイズをお願いする。

【事業計画】

- ・次年度以降のシェアハウスのあり方について検討する。7月まで。
- ・利用者を増やして7割可動を目指す。8月までに実施。
- ・継続して寄付を募る。今年の目標額は1200万円を目指す。

③b&gからふる田場

【計画】

- ▶ 前年度の3月にプレオープン。現在までに14名の子どもが通ってきている。
- ▶ 地域や行政や学校との連携は順調で、子どもの受け入れに関しても地域からの信頼を得ながら事業が実施できている。
- ▶ 3年後に日本財団からの財源が切れたあとの調整が必要である。学童保育と児童デイを併用して運営する予定だが行政との調整も必要で、今から根回しが必要である。
- ▶ 利用料が支払える子どもに対しても計画を立てて受け入れを進めていきたい。

【事業計画】

- ・研修事業を実施。年6回以上を開催して30万円の利益をあげる。
- ・利用料が支払える子どもを10人受け入れる。10人×6ヶ月 = 60万円

2019年度の法人としての課題

- ▶ 認定NPOの申請について
- ▶ 寄付が集まる仕組み
- ▶ 自主事業を作る
- ▶ 法人全体での人材育成
- ▶ 副代表理事の不在、事務局の新設、部局化の導入など、組織体制や人員配置の不安がある
- ▶ 理事会の定期開催、開かれた総会の開催
- ▶ ビジョン、ミッションの見直し、定款の見直し
- ▶ 収益事業を南部で実施する。

収益

コミュッと！→400万円

からふる→90万円

yukulu→1200万円（寄付）→次年度の財源がないため方針決定のリミットが必要。